

## クラウド型 OPAC の可能性/ Possibility of OPAC cloud

国立情報学研究所 情報社会相関研究系  
植木浩一郎

OPAC を利用した図書館所蔵資料の検索は、図書館の利便性を飛躍的に向上させた。一方、機関リポジトリは電子アーカイブとして、教育及び研究の環境改善等に貢献している。両者の役割は似ているが若干異なっており、使われている技術も違う。例えば、機関リポジトリにはメタデータハーベスティング機能があるが多くの OPAC には無い。そこで、両者のさらなる利便性向上について技術的な側面から検討を行った。

Using OPAC to find books in library greatly increased usability of libraries. Institutional repository as electronic archive helps improvement of research and educational environment. Roles of the both systems are similar, but there are some differences, such as technologies utilized by them. For example, institutional repositories have metadata harvesting function. On the other hand, most of OPACs are unable to harvest metadata. Further improvement in usability of both systems was investigated from the viewpoint of technology.

Web 2.0 は Web の進化の過渡的状态であり、Web 2.0 的な考え方には解決しなければならない問題点がある。例えば、利用者自身が作成したコンテンツを流通させる場合において、コンテンツの品質を保つための仕組みが明確ではない事などである。また、次世代型 Web と言われているクラウドコンピューティングでは、コンテンツの品質低下は、Web サービス全体に影響を与えかねず、積極的なクラウド導入ためには、Web の更なる進化が望まれている。一方、大学や地域社会における知性の向上において重要な役割を果たしていると考えられている図書館では、機関リポジトリや OPAC などの複数のシステムが混在しており、利用者にとっては必ずしも使い易いとは言えない。両者を統合する試みの一つは、OPAC へのメタデータハーベスティング機能の導入であると考え

られる。OPAC をメタデータハーベスティングに対応させ、機関リポジトリからも OPAC が利用可能になれば、機関リポジトリの利便性向上も見込まれる。また、OPAC にハーベスタとしての機能を導入すれば、OPAC 同士の連携も容易になると考えられる。

機関リポジトリのように既にデジタル化されたコンテンツからなるプラットフォームの場合、全文データを検索することが現在の技術では可能であり、次世代の機関リポジトリには、ネットワーク上で全文検索を行うための仕組みが導入されるのではないかと期待される。また、書籍の電子化が進めば、OPAC

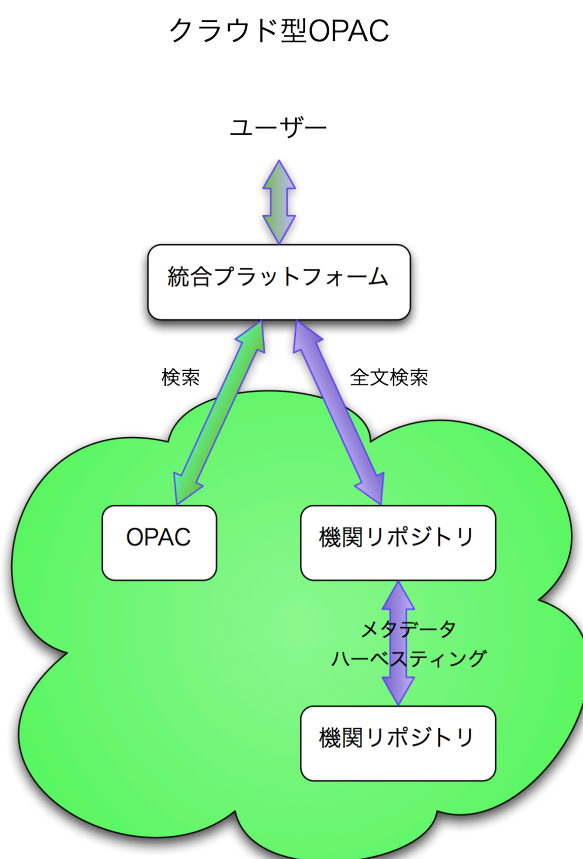


図 1 クラウド型 OPAC

にも全文検索の機能が新たに導入される可能性がある。これらの状況から、次世代の図書館情報システムでは、ネットワーク上のリポジトリや OPAC と相互にメタデータをやり取りし、全文データ及びメタデータの検索結果を統合する新たな仕組みの開発が、ユーザーが作成したコンテンツも提供するクラウド型システム(図 1) の実現には重要であると考えられた。